

## 関東支部秋の見学会に参加して

11月15日朝8時10分、東京駅丸の内口前を出発、快晴。こままでは去年と同じ。幹事の戸田先生（千葉工大）が用意して下さった見学先の二つの研究所に関するビデオを3巻見終わるうちに、事故で渋滞していた首都高を抜けた。東北道を一路北上、鹿沼ICで降りて予定より40分遅れの11:20に最初の見学地である日立金属（株）の素材研究所に到着した。石原研究所長の説明によると、素材研究所という名前は人事担当者の発案であり、もっぱら鋳物の研究を行っているとのこと。設立は1988年、22800 m<sup>2</sup>の土地に4030 m<sup>2</sup>の建物が建てられており、従業員は63人。その内訳は、マネージメント5人、研究者32人、研究補助者26人。従来の重力の助けによって型に注ぎ込む方法から180度思考を転換し、真空の力を借りて型の下から吸い上げる方法を開発したことによって薄いステンレス鋳物の作製に成功し、2度にわたり（1989、1993年）日刊工業新聞から10大新製品賞の一つとして表彰されたとのこと。鋳物の肉厚を従来の4~5 mmから2.5 mmにし、板金部門への進出を図る等の新ビジネス創出を行っているとの説明。研究所の特徴は、蓄えられた技術情報により顧客の求めに応じた機能設計を行うことができること、製品の性能評価を行う施設を備えていることであるとの説明だった。所内に掲示してあったFE-SEMによる非常にシャープな球状黒鉛鋳鉄の写真が、とても印象的だった。

13:00に日立金属（株）を後にし、2番目の見学地である花王（株）栃木研究所に到着したのは13:30だった。総務課の竹内様の説明によれば、花王の創業は1887年（明治20年）、良き物づくりを通して顧客の心を打つことを理念としているとのこと。パーソナルケア・ハウスホールド・サニタリー他の家庭用品が、化成系・油脂製品の工業製品に対して8:2の割合を占めるとのことからも、常に一般の顧客を意識した製品造りに取り組む会社の姿勢が理解できる。栃木の研究所では生物科学（生物科学・安全性）、衛生品（紙おむつ・生理用品・掃除機用紙製品）、情報科学（応用物理学・精密加工技術・情報—エレクトロニクス材料・インクリボン・トナー）、生産技術開発（機械加工部門）、素材の一部を研究しているとのこと。いつも見慣れた洗剤や化粧品が、充実した分析機器群や人材に

よって細菌や人間を丹念に調べた上でできあがっていることに驚いてしまった。16:15に花王（株）を後にし、当夜の宿である那須町湯本の松川屋に向かった。

午後7時からの懇親会が終わる頃には雪が降り出し、露天風呂で雪見をされた方もいらっしやう。翌16日の朝も強い吹き下ろしの風に混じて雪が吹き付けたが、バスが発車する頃には止み、紅葉の美しい山道を一路“みかも焼”の窯元に向かった。途中晴れた空の向こうに雪を頂いた富士山を見ることができ、幹事の戸田先生が、紅葉だけでなく雪や富士山まで見せてサービス満点だろうと自慢しておられた。みかも焼の比較的大きな仕事場を見学した後、足利学校に向かった。バスの中で戸田先生が用意して下さった案内ビデオを見ていたので、一段と興味深く見学することができた。日の光が透けてその陰が白壁に落ちた紅葉の美しさを捕まえようとカメラのシャッターを切ったが、できあがった写真を見て本当に美しい物はそう易々と残しておけないことを改めて知った。足利学校に隣接した立派な銀杏の木のある“ばんな寺”を見学した後、門前の通り“大門通り”にある“なか川”で昼食を摂った。昼食の後、伊万里や鍋島の展示で有名な栗田美術館を訪れた。広い敷地に豪華な展示館が散在し、短時間で見て歩くのは大変なことだった。栗田美術館を出て最後の見学地である佐野市の第一酒造（株）を訪れた。1673年（延宝元年）創業の蔵元の建物は、歴史を感じさせる立派な造りだった。門の脇の物置に置いてあった古い消火用の手押しポンプが、私の実家近くの小さな蔵元にあった物と似ていたので懐かしかった。11代当主の島田嘉内様が我々を出迎えて下さった後、専務さんが仕込みの始まったばかりの建物の内部をつぶさに案内して下さい。良い酒を造るために米を平均よりも多く削り、製品の均質性向上のために小さな単位で醸造を行っているとのことだった。食品コンテストで3年連続金賞を受賞した大吟醸の“開華”を始め5種類の清酒を試飲させていただいた。お酒の味もさることながら、我々の相手をして下さった専務さんを始め従業員の方々を見ていて、良い酒は美男美女を造るのかなあと感心した。東京駅が近づき、三田村支部長が戸田先生、橋本先生を始めとする幹事の方々にお礼の言葉を述べられた後、参加者一同は実り多い見学会のためにお骨折りを下さった幹事の方々に拍手で感謝の意を表した。バスは予定通り18時少し前に東京駅に到着し、解散となった。

（東京理科大学基礎工学部 清 忠節）



那須町湯本温泉松川屋にて